東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

Press Release

2024 年 9 月 3 日

報道機関　各位

国立大学法人東北大学

AI ロボットで“Yes We Dance !”
パリ 2024 パラリンピックのイベント会場（ヴェルサイユ）で
パフォーマンスを披露します

【発表のポイント】

- 工学研究科の平田泰久教授がプロジェクトマネージャーを務める、JST ムーンショット型研究開発制度（注 1）目標 3 の研究開発プロジェクトの一環として開発を行っている、AI ロボット群を用いた『スマーター・インクルーシブ・ダンス（注 2）』のパフォーマンスを、2024 年 9 月 8 日（日）にパリ 2024 パラリンピックの公式ファンゾーンである Le Club 2024 de Versailles（ヴェルサイユ）にて実施します。
- パフォーマンスには日本やフランスをはじめ、世界各国の研究者やダンサー、ミュージシャンなど多様なメンバーが集結します。
- 9 月 7 日（土）には、パフォーマンスで用いられる車いす型ロボット・立位移動ロボットの操縦体験が行われます。

【概要】

東北大学大学院工学研究科の平田泰久教授がプロジェクトマネージャーを務める、JST ムーンショット型研究開発制度、目標 3 の研究開発プロジェクト「活力ある社会を創る適応自在 AI ロボット群」では、誰もが、いつでも、どこでも安心して AI ロボットを使うことが当たり前となり、すべての人が積極的に社会参画できる活力ある社会（スマーター・インクルーシブ・ソサエティ）の実現を 2050 年の目標に掲げています。そのコンセプトを表現するためにパリ・サクレー大学（フランス）の Eric Monacelli 教授と連携し、AI ロボット技術を用いることで、世代の差や障がいの有無・程度を気にすることなく、国境を越えて全員が同じステージで一緒にダンスを楽しむことができる『スマーター・インクルーシブ・ダンス』の実現を目指しています。

その実現に向けて、これまでに国内外の AI ロボット技術の研究者はもちろんのこと、ダンス（身体表現）の専門家や理学・作業療法士、介護システム開発会社の技術者らと強力な協力関係を結び、“Yes We Dance !”プロジェクトを発足し、研究開発を進めるとともにパフォーマンスをフランス、日本、カナダ、南アフリカで実施してきました。

イベント

その集大成として、パリ 2024 オリンピック/パラリンピックのパブリックビューイングやイベントを行うファンゾーンのひとつとしてフランス ヴェルサイユの旧郵便局跡地に整備された Le Club 2024 de Versailles を会場として、2024 年 9 月 8 日（日）18:00-20:00 （CET）にダンスパフォーマンスを実施することになりました。当パフォーマンスは平田教授らが開発した AI ロボット技術の活用により、NPO 法人『みんなのダンスフィールド（注 3）』のメンバーや障がいを持つダンサーに加え、研究開発プロジェクトに参画している研究者がダンサーやミュージシャンとして参加します。これは移動支援ロボットを移動手段のみに留めず、感情表現の手段として用いることで、誰もが同じステージで一緒にダンスを楽しむ『スマーター・インクルーシブ・ダンス』のコンセプトを余すことなく表現するものです。また、9 月 7 日（土）17:00-18:00 (CET) には同会場にて、パフォーマンスで用いられるロボットの操縦体験が行われます。

【日程・開催概要】

“Yes We Dance !”インクルーシブ・ミュージカル・ショー

日　時：2024 年 9 月 8 日（日）18:00-20:00（CET）

場　所：Le Club 2024 de Versailles

（Ancienne Poste de la ville, 3, avenue de Paris, Versailles, France）

https://maps.app.goo.gl/qqKgTojf3iuZv22y9

プログラム（予定）：

18:00〜18:30：本イベントの概要紹介

18:30〜19:00：ショー①　“Twilight Harmony”

日本の NPO 法人『みんなのダンスフィールド』メンバーを中心とした、健常者/障がい者ダンサーと AI ロボット技術の融合による身体的な制限を超えたパフォーマンス（図 1 参照）

19:00〜19:30：ショー②　“Allez on Volte !”

パリ・サクレー大学の VOLTING（注 4）チームを中心とした、障がいに直面したカップルのストーリーを描くミュージカルショー（図 2 参照）

19:30〜　：グローバルフィナーレ　“Yes We Dance !”

参加者全員でのインクルーシブ・ダンス体験

20:00〜　：巨大スクリーンによるパラリンピック閉会式の放映

スマーター・インクルーシブ・ダンス用ロボットの試乗体験

日　時：2024 年 9 月 7 日（土）17:00-18:00（CET）

場　所：Le Club 2024 de Versailles

※どちらも参加無料・事前申込なしでご参加いただけます。

※屋外での開催のため、天候等に応じて時間の変更や中止の可能性があります。

図 1.　2023 年 10 月に八重洲で開催された“Yes We Dance !”
パフォーマンスの様子

図 2.　2024 年 8 月に Le Club 2024 - Saint-Quentin-en-Yvelines
（フランス）で開催されたミュージカルの様子

【問い合わせ先】
〈イベント・内容に関すること 〉
東北大学大学院工学研究科 ロボティクス専攻
ムーンショット研究推進室　担当 瀬戸 文美
TEL: 022-795-6940
Email: moonshot_office@srd.mech.tohoku.ac.jp

〈 報道に関すること 〉
東北大学工学研究科情報広報室 担当 沼澤 みどり
TEL: 022-795-5898
Email: eng-pr@grp.tohoku.ac.jp

【開催背景と今後の展開】

東北大学大学院工学研究科の平田泰久教授がプロジェクトマネージャーを務める、JST ムーンショット型研究開発制度 目標 3 の研究開発プロジェクト「活力ある社会を創る適応自在 AI ロボット群」では、誰もが、いつでも、どこでも安心して AI ロボットを使うことが当たり前となり、すべての人が積極的に社会参画できる活力ある社会（スマーター・インクルーシブ・ソサエティ）の実現を 2050 年の目標に掲げています。

また平田教授は JST COI-NEXT（注 5） 共創本格型『「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点』に参画し、「誰もが人生のどのステージでも、共に暮らし、働き、遊べることで、主体的に生き生きと暮らせる社会」という拠点ビジョンのもと、主に視覚障がい者を対象とした“「できない」を「できる」にする情報格差ゼロ社会の設計”のための技術開発を行っています。

これらのコンセプトを広く共有するため、ダンスという文化的・身体的なコミュニケーションを通じて創造的で包容力のある共創社会の実現を目指している NPO 法人「みんなのダンスフィールド」（代表：西洋子）の協力のもと、AI ロボット技術を用いて世代の差や障がいの有無・程度を気にすることなく全員が同じステージで一緒にダンスを楽しむことができる『スマーター・インクルーシブ・ダンス』によるコミュニティの創出を行ってきました。

これまで、フランスのパリ・サクレー大学（フランス）と東北大学（日本）を中心として、テクノロジーによる移動能力の拡張だけではなく感情表現の拡張を目指し、電動車いすとジェスチャーによる操作を用いた VOLTING プロジェクトに関する共同研究を進めてきました。今回のパフォーマンスはこの国際連携の成果が結実したものとなります。

今後は移動能力のみならず環境把握能力の拡張のため、視覚障がい者を対象とした触覚呈示デバイスによるダンス運動の教示や環境認識センサを用いた人の誘導技術をパリ・サクレー大学との国際連携によって実施していきます。これは『スマーター・インクルーシブ・ダンス』の対象を健常者や下肢障がい者から視覚障がい者へと拡張するものです。

これらの研究開発によって得られた成果はダンスのみならず、日常生活活動（Activities of Daily Living：ADL）の訓練やリハビリテーション分野、視覚障がい者の移動補助などへの応用が期待されます。

【関連リリース】

世代も障がいも国境も越えて AI ロボットで“Yes We Dance！”

AI ロボット技術を活用したスマーター・インクルーシブ・ダンスのパフォーマンスを東京で開催（2023 年 9 月 21 日 発表）

https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/09/event20230921-01-eng.html

【用語説明】

注1. JST ムーンショット型研究開発制度
　我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を推進する国の大型研究プログラム。
　未来社会を展望し、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象として、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）及び構想を国が策定し、挑戦的な研究開発を推進するもの。
　https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/index.html

注2. インクルーシブ・ダンス
　世代や経験の差、障がいの有無にかかわらず、あらゆる人が互いの個性を尊重し、ダンスという生き生きとした身体表現の活動を通じて創造性・包括性を実現する活動。

注3. NPO 法人「みんなのダンスフィールド」
　インクルーシブ・ダンスを通じて、創造的で包容力のある共創社会の実現と、それに寄与する人材の育成を目的として 1998 年に設立。インクルーシブ・ダンスのワークショップやアウトリーチ活動、共創表現ファシリテータの人材育成などを通じて、あらゆる人にとって表現が当たり前となることを目指し活動を行っている。

NPO法人 みんなのダンスフィールド Inclusive Field for Dance since 1998

　https://www.inclusive-dance.org/

注4. VOLTING プロジェクト
　テクノロジーによる移動能力の拡張だけではなく感情表現の拡張を目指し、電動車いすとジェスチャーによる操作を用いた車いすダンスの新しい形の提案を目的として、パリ・サクレー大学/LISV の Prof.　Eric Monacelli を中心にプロダンサーや振付師、ミュージシャン等とのコラボレーションによって進められている。

　https://volting.org/accueil-english/

注5. JST 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）
　大学等が中心となって未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラム。国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進する。
　https://www.jst.go.jp/pf/platform/index.html

【参考】

JST ムーンショット型研究開発事業　目標 3 の研究開発プロジェクト「活力ある社会を創る適応自在 AI ロボット群」 ウェブサイト

https://srd.mech.tohoku.ac.jp/moonshot/

JST 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）

VISION to CONNECT　『「みえる」 からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点』ウェブサイト

https://coinext-mieru.tohoku.ac.jp/

ムーンショット型研究開発事業@JST　note 記事

“Yes We Dance!” AI ロボット技術を使った「スマーター・インクルーシブ・ダンス」で、みんな一緒に楽しもう！：

https://note-moonshot.jst.go.jp/n/n30e1a462d1c8